

福島第一原子力発電所 4号機燃料取り出し作業に関わる社内外レビュー結果概要

- ・4号機使用済燃料プールからの燃料取り出し作業に先立ち、がれきの影響および通常のプラントとの作業環境の違い等、燃料取り出しにおける潜在リスクに対する準備状況について、社内の原子力安全監視室のレビューに加え、社外専門家であるIEG(国際エキスパートグループ)や原子力改革監視委員会のレイク・バレット氏にもレビューをいただいた。
- ・いただいたコメントについては、対応状況を説明しご理解いただいた。(以下、参照)

主なコメント	対応状況
作業開始公表前に手順やリスク評価について社内外のレビュー結果を踏まえた計画となっているか確認し、適切な責任者が承認するといった必要なプロセスを踏むこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・作業手順やリスク評価は社内外のレビューを受け、指摘されたコメントについては、手順への反映、作業員への展開など、燃料取り出しを実施するにあたって必要なものすべてについて対応したことを確認。 ・経営層による承認プロセスが完了。
第三者レビューも含めて、これまで何に取り組み、これから何に取り組む予定なのか情報発信すること。作業開始後は、作業プロセスを可能な限りビジュアル化して透明性を持って情報発信すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のレビュー結果の公表に加え、今後の取り組み状況については、原子力安全改革プランの下に設立された社内ソーシャル・コミュニケーション室の確認や社外のご意見を踏まえ、分かりやすく透明性を持った情報発信に努めて参りたい。
モックアップ・トレーニングや(核分裂生成物を含まない)新燃料を優先的に取り出すことによる作業習熟を図るべき。	<ul style="list-style-type: none"> ・燃料・キャスク取扱いの実機を用いた訓練、確認に加えて、がれきによるチャンネルボックス固着時の対応などもメーカ工場や実機でのモックアップやトレーニングを事前に実施していることを説明し、ご理解いただいた。 ・また、1基目の新燃料輸送終了時に、作業上の問題がないかレビューを実施し、改善事項があれば手順等に反映することとしている。
全面マスクの着用は作業員のストレスとなり生産性を低下させる可能性があることから、不必要な着用は避けるべき。	<ul style="list-style-type: none"> ・所全体として全面マスク着用省略可能エリアの拡大に向け取り組んでいる。 ・4号機燃料取り出し作業については、軽装備(半面マスク)での作業を行うこととしている。ただし、作業内容(キャスク洗浄作業など)に応じて全面マスクを使用する場合もある。
ALARA(As Low As Reasonably Achievable)の精神に則った作業を実施すること。 <small>* ALARA:合理的に実行可能な限り低く</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・ALARAの精神に則り、通常作業時においては、給気フィルタ設置やプール水の継続的浄化により合理的に達成できる範囲で線量が低くなるよう、また、異常時は警報や一斉放送により即時退避できるよう過剰被ばく防止に努める。